

神奈川県調査

～経済地理学的な視点から～

神奈川県公立中学校教諭

はじめに

子どもたちに「地理は好きか」と聞くと、往々にして「好きではない」とか「嫌い」とかいう答えが返ってくる。「覚えるだけで面白くない」とか「地名がどうしても覚えられない」とか、地理は地名を暗記する教科だと思っている子どもが多いことに驚く。現行の学習指導要領はこのことを改善しようとしている。しかし、ただ調べたり、発表したりでは、地理という学問が持つ楽しさにはなかなか気がつかない。

学問としての地理にはさまざまな切り口がある。人口地理学、自然地理学、歴史地理学、経済地理学…その地理学の成果を、中学校の

地理にうまく活用できないだろうか。子どもたちが今まで人類が積み上げてきた成果にふれることによって、地理の奥深い楽しさ、素晴らしさに気づかせてあげたい。「地理って意外に楽しい」という答えが聞きたい。

経済地理学の利用

神奈川県は、工業生産（出荷額）が2位（2004年）の県であり、工業という視点は県をとらえていくためには欠かせない。そこで「各種工業がどこに、どのように分布しているか」という神奈川県における各種工業の分布を学習問題とした。

この問いに答える理論は経済地理学における工業立地の理論である。とくに有名な学者はウェーバーであり、彼は工業立地の決定を、輸送費指向、労働費指向、集積の3つにわけて考察している。

工業は輸送費の安いところに立地する。たとえば、鉄を1t生産するために鉄鉱石は約1.7t必要である。そのため、製鉄業は原料地に多く立地する。また、逆にビールは麦などの原料が軽く、製品であるビールは重たいために、消費地に多く立地する。これが輸送費指向である。

輸送費よりも労働費による節約が大きな場合には労働力指向になる。また、コンビナートのように工業が集積することによって有利



⑤ 工業のさまざまな特色

表1 市区町村別の工業出荷額(百万円)

市町村	区	石油化学		製鉄・金属		電気・一般機械		輸送機械		精密機械	
		銀	金	青	赤	緑					
		1万以上 小1	1万以上 小1	1万以上 小1	1万以上 小1	1千以上 小1					
		10万以上 大1	10万以上 大1	10万以上 大1	10万以上 大1	1万以上 大1					
横浜市	鶴見区	50,000	100,000	300,000	150,000	4,000					
横浜市	神奈川区	10,000	20,000	20,000	90,000	1,000					
横浜市	西区	0	0	5,000	0	0					
横浜市	中区	0	100,000	9,000	40,000	0					
横浜市	南区	0	6,000	10,000	0	0					

になる場合は集積となる（参考『経済立地の理論と実際』富田和暁著）。

ちなみに、帝国書院の教科書には前ページのような図が掲載されている。また、帝国書院の「地理資料・ワーク」にはもう少し詳しい記述がされている。

どのように授業を作るか

「各種工業がどこに、どのように分布しているか」という学習問題を考えるため、分布図の作成を考えた。石油化学、製鉄・金属、電気機械、輸送機械、精密機械の5つの市区町村別工業出荷額から分布図を作成する。データ(表1)は神奈川県庁企画部統計課ホームページ「市区町村別産業中分類別工業統計出荷額等」から作成した。

今回、それぞれの分布を表すときに工夫したのは、色シールである。

凡例	石油化学	・・・	銀
	製鉄・金属	・・・	金
	電気機械	・・・	青
	輸送機械	・・・	赤
	精密機械	・・・	緑

というように色を決め、出荷額が10,000だと小さいシール1枚、100,000だと大きなシール1枚というようにした。

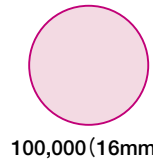
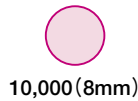
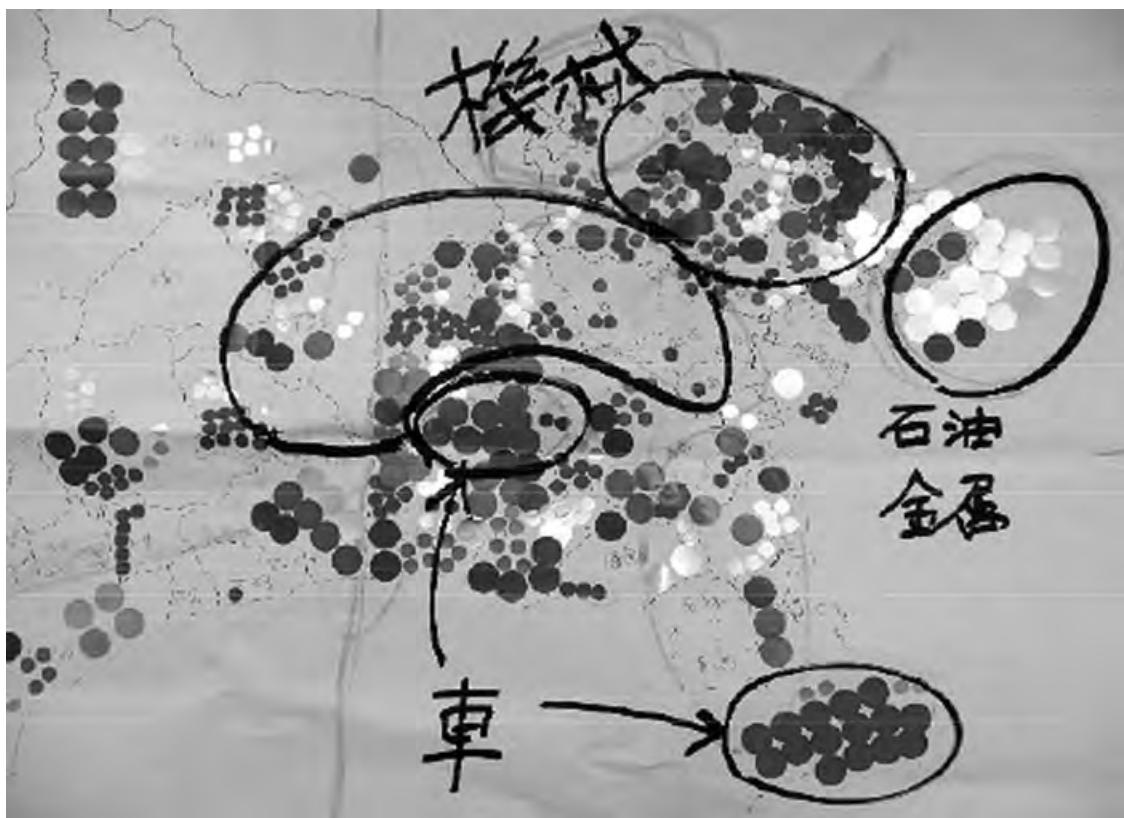


表1と凡例に従って、神奈川県白地図(市区町村の区分けのしてあるもの)にシールをはっていくと、次のページの図1のような地図ができあがる。

カラーではないから、わかりづらいが、川崎・横浜の県東部の埋め立て地には銀、金などのシールが集中している(京浜工業地帯)。また、平塚から相模原の県中央部、東名高速道路周辺を中心に赤、その周りに青と緑が集まっている(綾瀬にはいすゞ自動車)。ちなみに教科書には、一般的な工業地域ということで以下のような記述になっている。神奈川県はまさに教科書どおりの立地になっている。

海に面したところには、…石油化学工業の工場が多くあります。これらの工場では、海外から運ばれてくる石油などを原料として製品をつくっている… <中略>

図1 神奈川県工業の分布図



内陸の工業地域では…機械工業の工場が多くみられます。…自動車工場は、自動車を組み立てるために多くの種類の部品が必要なので、まわりには部品や、その材料をつくる工場がたくさん集まります。(教科書p.191~192)

単元の計画

図1の地図を単元で使用する中心的な教材として、単元を構成してみる。

単元の目標は「神奈川県の石油化学、製鉄・金属、電気機械、輸送機械、精密機械の5つの市区町村別工業出荷額の分布図から、神奈川県の工業の一般的な特色（工業の立地理論で説明できること）と地域的な特色（工業の立地理論で説明できないこと）をつかむ」ということになる。

そこで単元の展開は…

1時間目は日本全体から見た神奈川県の工業について学習し、神奈川県が工業県であること、さかんな工業のようすなどを学ぶ。2時間目は、神奈川県の中でどこにどのような工業が立地しているか、作図にはいる。ちなみに、これはグループで学習する。早いグループだと30分程度で完成する。3時間目に、地図を見て気がついたことを個人で考え、クラスで発表する。ポストイットに書いて黒板に貼ったりしてもよい。4時間目には、その答えを予想し、どのように調べたらよいか、方法を探らせる（インターネットの場合は、どのようなキーワードを検索すればよいか）。5時間目、6時間目は、インターネットや書籍で調べてまとめる。7時間目にはクラスで調べた成果をまとめ、8時間目、9時間目には、その成果をもとに、神奈川県の他の側面

にふれる（参照 表2 単元計画）。

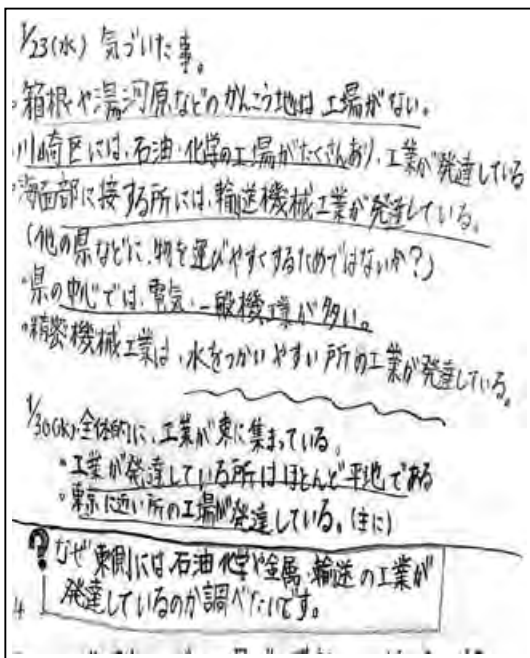
表2 単元の計画

1	日本全体からみた神奈川県工業
2	工業の分布図作成
3	分布図を見て気がついたこと
4	クラスの疑問と答えの予想
5	調べる
6	クラスで調べた成果を発表する
7	神奈川県のみとめ

単元の展開～子どもの学習から～

では、実際の単元の展開から、どのように子どもの学習が進んだのか見てみよう。

3の「分布図を見て気がついたこと」で子どもの気がついたことを挙げてみよう。ちなみに子どもたちはできた分布図と資料集と教科書も一緒に見ている。



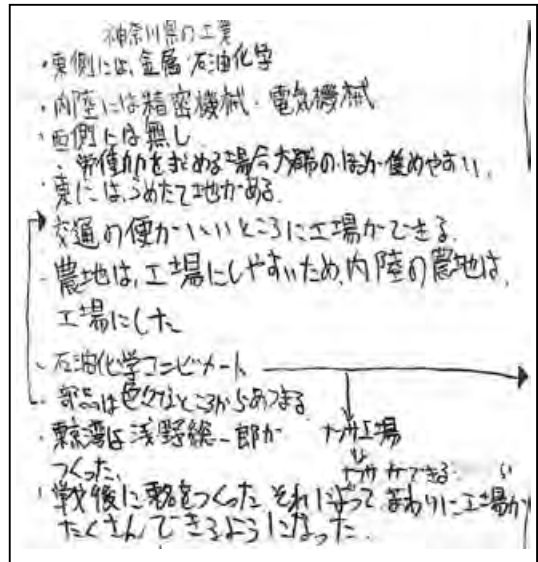
子どもの書いた気がついたこと

4のクラスの疑問では、

「川崎区に石油化学が多いのはなぜか」

「西側に工場は少ないのはなぜか」

「内陸部に機械が多いのはなぜか」となり、インターネットや書籍で調べることとなった。



子どもがまとめたもの

子どもがまとめたものを見ると、地理学の理論にふれ、深く考えた様子が見える。また、単元が終わったあと、地理が思ったよりも楽しいという感想が多かった

このように、子どもたちはシールの分布図によって地理の奥深さにふれ、興味深く学習できたようである。まだまだ課題はあるが、効果的な学習法であり、教材であるといえる。

また、歴史的分野でも、江戸幕府の政治で、外様大名、譜代大名、親藩大名、御三家について規模に応じたシールをはらせて分布図を作成してみるのも面白いであろう。

新学習指導要領に向けて、有効に活用できる研究を進めていきたい。